

# ドクター大竹すすむかく戦えり

～勝利を信じ願い～

2015年6月6日

大竹すすむ選対本部長 浅石 紘 爾

私たちは、この17日間を社民・共産両党の力強い支援を受けながら、ドクター大竹すすむを先頭に押し立てて、県内主要地域の6政治団体とともに手作り選挙でたたかい抜いた。

ドクター大竹すすむは、超人的とも言える行動力を発揮して広い青森県を駆け巡り、真剣な態度で、丁寧にわかりやすく県民に語りかけ、“変えよう青森県”を訴えてきた。

遊説最終日のきょうは、県都・青森市内において26回の街頭演説を行い、告示からの街頭回数は270回に及んだ。

個人演説会や各種会合を合わせると、どれだけの県民と対話を重ねたのだろうか。

ドクター大竹すすむは、まさに「命がけ」で知事選に挑戦し、驚異的な体力と精神力で力の限り闘いぬいて選挙戦を締めくくった。県民のいのちを守りたいという信念が行動に駆り立てた。

さらに、ドクター大竹すすむの幅広い人脈は、国政の党派を超えた国会議員の支援を可能にした。

社民党は吉田党首と福島瑞穂・副党首が、序盤と終盤にそれぞれ駆けつけてくれたし、民主党の阿部知子衆議院議員と共産党の小池晃衆議院議員は、医師仲間として告示の前後2回にわたって支援行動にはせ参じた。

生活の党と山本太郎となかまたちの山本太郎衆議院議員は、告示前の八戸市の集会で主役を演じ、ドクター大竹すすむをアピールしてくれた。

核燃・原発全廃の立場から、脱原発弁護団全国連絡の共同代表 海渡雄一弁護士も駆けつけてくれた。

今回の知事選挙もまた、低投票率が危惧されている。

36年ぶりの一騎打ちのたたかいで、争点が明確であるにもかかわらずである。

私たちは、県民にドクター大竹すすむの政策を理解していただくために、そして私たち自らの活動で、投票率アップをはかることを狙いに、

個人ビラを法定限度の14万5千枚

政策ビラは5万枚を増刷して30万枚

を県民に配布し終えた。

さらに、市民の自発的な発案行動で、ぬいぐるみや音楽を奏でながら、投票率アップを働きかける取り組みも試みた。

八戸の朝市では、大衆にとけこみ市井の悩みを肌で感じ取った。

きょうの午前と午後の2回、十和田市の「駒っこ広場」の隅っこで、ただ一人、打楽器を演奏しながら、大竹支持と投票参加を呼び掛けていた男性の姿があった。午前に4人、午後に3人の有権者が訪れて交流を深めたとのことである。

大竹の訴えは、静かに、そして深く心ある有権者に浸透していると思う。

ドクター大竹すすむは、青森の未来に思いを馳せ、あきらめない青森の再生を願う多士済々の県民から支持された。

勝利を信じ、そして願い、あすの県民の審判を待つ。